

○ 関西電力のCO2排出係数の中長期的な見通し

2030年の「ありたい姿」のひとつとして、「低炭素社会のメインプレイヤー」を  
 かけ、定量的なイメージとして、2030年における非化石電源比率を  
 現状(2008)の約5割から、原子力を機軸に、再生可能エネルギーの積極的導  
 入などにより、約6~7割に高めることを目標としている。

現状の電源開発計画は、以下の通りとなっております、

(自社開発分)

発電所名	出力 (万 kW)	運転開始	備考
舞鶴2号 [石炭]	90	H22-8	工事中
堺港4号, 5号 [LNG] ※1, 2	80	H22-4, H22-9	工事中
姫路第二1号~6号 [LNG] ※1	291.9	H25-10~27-10	着工準備中
和歌山 [LNG]	370	H32年度以降	着工準備中
堺第7-3区(仮称) [太陽光] ※3	1	H23-10	工事中
大桑野尻 [水力]	0.05	H23-6	着工準備中
新黒薙第二(仮称) [水力]	0.19	H24-12	着工準備中

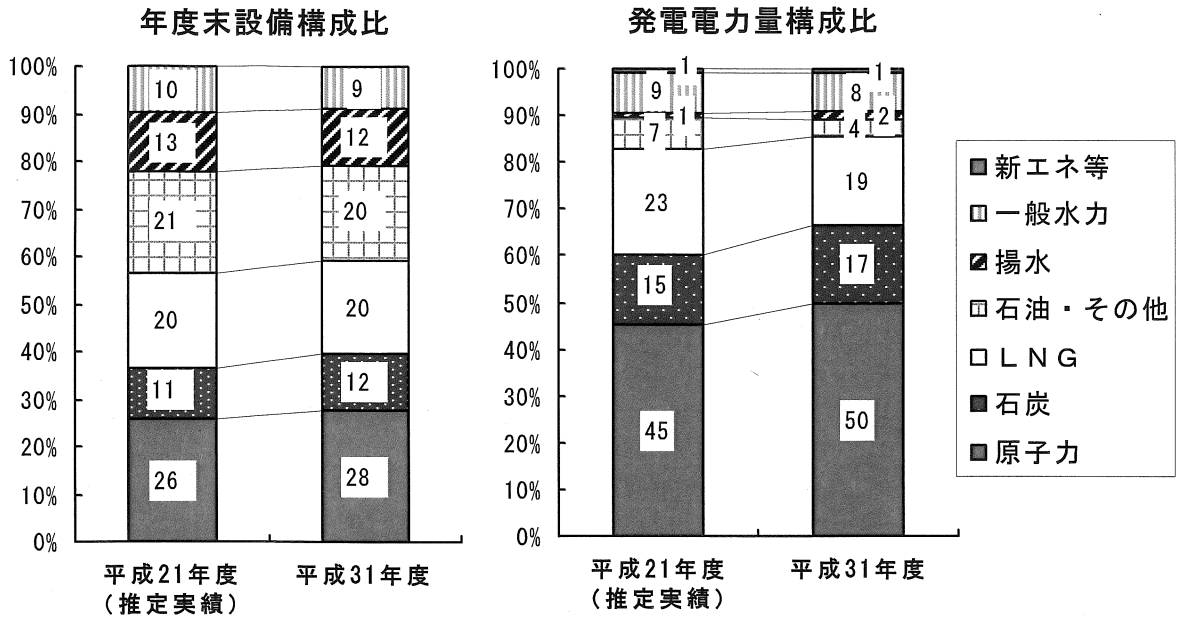
※1 堺港発電所および姫路第二発電所は、コンバインドサイクル発電方式への設備更新  
 ※2 堺港発電所(合計出力200万kW)のうち、1号~3号は平成21年度に運開済み  
 ※3 平成22年11月に一部運開予定

(他社開発分)

発電所名	出力 (万 kW)	運転開始	備考
敦賀[原子力] <日本原子力発電㈱>	3号	H28-3	関西・中部・北 陸3社で受電
	4号	H29-3	

火力発電所における高効率化のための設備更新、原子力の新規電源の投入(他  
 社分)、小規模ながら、太陽光、水力などの自然エネルギーの導入などにより、系統  
 電力の低炭素化に向けて取り組むこととしている。

・電源構成比率



注1：年度末設備、発電電力量には他社受電分を含む

注2：端数処理の関係で合計が100とならない場合がある